

## 教授

ご活躍の足跡  
(2016年1月～12月)

植村 邦彦

## 著書

- (1)『ローザの子供たち、あるいは資本主義の不可能性——世界システムの思想史』（単著）平凡社、pp. 232、6月刊。

## 分担執筆

- (1)姜尚中・齋藤純一編『逆光の政治哲学——不正義から問い返す』第6章、法律文化社、pp. 83-96、4月刊。
- (2)川越修・河合信晴編『歴史としての社会主義——東ドイツの経験』第9章、ナカニシヤ出版、pp. 195-213、8月刊。

## 論文

- (1)「ドイツにおける「市民社会」概念——16世紀から21世紀まで」『社会思想史研究』第40号、藤原書店、pp. 27-45、9月刊。

## 翻訳

- (1)Kiyooki Hirata, Marx's Concept of Civil Society, translated by Kunihiko Uemura. 『経済学史研究』第57巻第2号、経済学史学会、pp. 89-102、1月刊。

## 学会・研究会

- (1)「世界システム論の行方」社会思想史学会第41回大会セッション「21世紀の世界システム論を考える」、中央大学、10月30日。

宇都宮 浄人

## 著書

- (1)『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか—交通・商業・都市政策を読み解く』、学芸出版社、12月刊（共著）。

## 論文

- (1)「インバウンド観光と交通」、『鉄道事業の海外展開とインバウンドツーリズム—グローバル化と都市交通事業委員会報告書—』、関西鉄道協会都市交通研究所、1月刊。
- (2)「京阪神圏の鉄道の現状と課題—求められる戦略・戦術—」、『運輸と経済』第76巻第3号、pp. 59-66、3月刊。
- (3)「地域公共交通とソーシャル・キャピタルの関連性」、『交通学研究』、通巻59号、pp. 77-84、3月刊。
- (4)Social capital and local public transportation in Japan, Research in Transportation Economics, Vol.59, pp. 434-440.
- (5)「インバウンド観光の地域間格差の実態と背景」、『運輸と経済』、第76巻第7号、pp. 128-136、7月刊。
- (6)「地域鉄道の価値—『コンパクト+ネットワーク』の骨格として」、『JREA』、第59巻第7号、pp. 4-7、7月刊。

## 書評

- (1)原田昇編著『交通まちづくり—地方都市からの挑戦—』、(鹿島出版会、2015年)、『運輸政策研究』第18巻第4号、運輸政策研究機構、p. 46、1月刊。
- (2)藻谷浩介著『和の国富論』（新潮社、2016年）、『波』、第50巻第5号、新潮社、pp. 36-37、5月刊。

## 学会・研究会

- (1)「地域鉄道の存在価値—CVMによるアプローチ」、日本交通学会、一橋大学、10月8日。
- (2)「地域鉄道の存在価値—CVMによるアプローチ」、土木計画学研究発表会、長崎大学、11月5日。

## 講演会

- (1)「LRT は街に人を呼び込めるか」、2016 冬公共交通フォーラム、横浜みなと博物館訓練センター、1月30日。
- (2)「地域再生の戦略～『交通まちづくり』というアプローチ」、交通事業者が仕掛ける観光・地域づくりシンポジウム、ホープスター鳥取、2月15日。
- (3)「地域再生の戦略～『交通まちづくり』というアプローチ」、公共交通を活かした地域づくりシンポジウム、山梨県立図書館、3月5日。
- (4)「地方創生と公共交通～交通まちづくりの新展開～」、内外情勢調査会・宇都宮支部講演会、宇都宮東武ホテルグランデ、5月16日。
- (5)「つながる鉄道、つながる市民～交通まちづくりが築く社会～」、中部地区路面電車サミット、福井ハピリンホール、5月22日。
- (6)「交通まちづくりの新展開」、テクノバシンポジウム：2050年に向けた都市・交通・モビリティとエネルギーの未来、TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町、5月23日。
- (7)「地域再生の戦略～『交通まちづくり』というアプローチ」、日本交通協会交通研究委員会、日本交通協会、6月6日。
- (8)「地域鉄道の価値を考える」、地域鉄道フォーラム 2016、東武博物館内ホール、6月11日。
- (9)「交通まちづくりの新展開」、国土交通省都市局勉強会、国土交通省、8月10日。
- (10)「地域再生の戦略～『交通まちづくり』というアプローチ」、大分経済同友会講演会、トキハ会館、8月25日。
- (11)「交通まちづくりの新展開」、日本政策投資銀行勉強会、日本政策投資銀行、10月3日。
- (12)「都市再生の新戦略～LRT とまちづくり」、神戸経済同友会講演会、神戸経済同友会、10月5日。
- (13)「地域鉄道の価値」、JR 函館本線の存続を求める住民の会講演会、余市町中央公民館、10月16日。
- (14)「ポートラムがもたらしたもの」、交通まちづくりフォーラム、富山オーバードホール、10月21日。
- (15)「地域における鉄道の役割～『交通まちづくり』を見据えて」、四国新幹線勉強会、香川県社会福祉総合センター、10月24日。
- (16)「LRT による交通まちづくり」、あーす会・club G-KTC 共催講演会 神戸北野会館、11月9日。
- (17)「地域再生の戦略～『交通まちづくり』というアプローチ」、宮崎の「交通まちづくり」を考える講演会、カリーノ宮崎、11月19日。
- (18)「地方創生と交通まちづくり～幸せな社会をめざして」、地方創生と交通まちづくり講演会、浜松市教育会館、12月11日。
- (19)「地域再生の戦略～『交通まちづくり』というアプローチ」、佐賀地域経済研究会、佐賀大学、12月21日。

## その他

- (1)「大都市圏周辺部の危機—神戸電鉄粟生線問題からみえるもの—」、『鉄道ジャーナル』、第50巻1号、1月刊。
- (2)「地域社会と鉄道の役割」、『みんてつ』、第56号、1月刊。
- (3)「オランダのLRT」、『路面電車EX』、第7号、pp. 92-98、5月刊。
- (4)「公共交通の再生：官民一体で」、『読売新聞』8月19日朝刊。
- (5)「オーストラリアのLRT」、『路面電車EX』、第8号、pp. 100-106、10月刊。

## 片山 直也

## 著書

- (1)『The portmanteau tests and the LM test for ARMA models with uncorrelated errors.

Advances in Time Series Methods and Applications: the A. Ian McLeod Festschrift.』Editors: W. K. Li, David Stanford and Hao Yu, Fields Institute Communication. Series; Springer.

#### 学会・研究会

- (1)「Comments on A Top-Down Method for Rational Bubbles: Application of the Threshold Bounds Testing Approach.」日本ファイナンス学会第24回大会、5月（討論者）。

#### 北川 勝彦

##### 著書

- (1)『*Contemporary African Economies : A Changing Continent under Globalization*』(co-editorship with Motoki Takahashi), African Development Bank, July .

##### 論文

- (1)「新生南アフリカの経済事情」『セミナー年報2015』関西大学経済・政治研究所、pp. 129～145、3月刊。
- (2)「Revision of the Congo Basin Treaty and Japan in the 1930s : Examining the Narratives of Consular Reports.」『関西大学経済論集』第65巻第4号、pp. 61-71、3月刊。

#### 学会・研究会

- (1)「Japan-Africa in the Internaitonal Africanist Movement : with Referring to Discourse of Strengthening the Foundation for TICAD Process」日本アフリカ学会第53回学術大会、日本大学生物資源科学部、6月4～5日。
- (2)「アフリカ史研究のリオリエント」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、共同利用・共同研究「アフリカ史叙述の方法にかんする研究」、11月19日。

#### 北原 聡

##### 講演会

- (1)「関西財界人の文化活動—美術品蒐集からみた関西経済の盛衰—」金融経済教育教員交流研究会、日本証券業協会大阪地区協会、11月19日。
- (2)「水都大阪の今昔—河川・堀川・渡し船—」大阪府・大阪市教職員対象研修講座、関西大学、8月3日。

#### 北波 道子

##### 著書

- (1)『アジア遊学 交錯する台湾認識—見え隠れする国家と人びと—』(共編著)勉誠出版、12月刊行。

##### 分担執筆

- (1)『台湾をするための60章』第8・18・19・20・21・22・23・55・58章、コラム5、明石書店、8月刊。

#### 学会・研究会

- (1)「台湾の南向政策とベトナム」第19回現代台湾研究学術討論会、関西大学、8月26日。

#### 古賀 款久

##### Working Paper (Discussion Paper)

- (1)『知識移転と生産性：格差持続性と集計生産性分解』関西大学経済学部ディスカッションペーパー No J45 (3月30日)。

#### 後藤 健太

##### 分担執筆

- (1) (forthcoming) “Chapter 6. Development Through Innovation: The Case of the Asian

Apparel Value Chain” in Little, Stephen E.; Go, Frank M.; and Teresa Shuk-Ching Poon (eds.) Global Innovation and Entrepreneurship: Challenges and Experiences from East and West, Basingstoke and New York: Palgrave Macmillan.

「グローバル化時代の企業と国家」『アジア太平洋と関西—関西経済白書〈2016〉』第1章3節、アジア太平洋研究所、pp. 12-16、10月刊。

## 論文

- (1) (forthcoming). “Agricultural Modernization and Rural Livelihood Strategies: The Case of Rice Farming in Laos” Canadian Journal of Development Studies. (with Bounlouane Douangngeune).

## 資料・その他

- (1) 「求む、イノベーション力！グローバル化時代の日本の課題」『Kyodo Weekly』共同通信、pp. 8-9、10月刊。
- (2) 「ベトナムの最低賃金の動向：グローバル化と産業高度化のはざままで」『Work & Life 世界の労働』日本ILO協議会、pp. 34-39、10月刊。
- (3) 『外務省 ODA 評価報告書 ベトナム国別評価』外務省(山形辰史と KPMG AZSA LLC との共著)、2月刊。

## 学会・研究会

- (1) Middle Income Traps in Global Value Chains International Conference on Business and Economics, Global Academic Institute、プラハ、チェコ、9月5日。

## 講演会

- (1) 「グローバル・サプライチェーンにおける労働の課題」登壇（発表タイトル：労働 CSR と競争力強化—ベトナム電子産業の事例からの検討）、法政大学・ILO 共催 第29回 国際労働問題シンポジウム、東京：法政大学、10月4日。
- (2) 「International Production and Distribution Networks Challenges, Prospects and Implications for Africa」、PREX-JICA アフリカ貿易促進研修講師、神戸：JICA 関西、9月15日。
- (3) 「ベトナムのインフォーマル経済について」、PREX 所内勉強会講師、大阪：PREX、4月22日。
- (4) 「発表タイトル：「ベトナムの電子産業における労働 CSR と競争力強化」、APIR セミナー：海外進出における労働 CSR とディーセントワークの促進、大阪：アジア太平洋研究所、4月19日。

## 佐々木信彰

### 著書

- (1) 『現代中国の産業と企業』（編著）晃洋書房、10月刊。

### 分担執筆

- (1) 「中国・自動車産業と第一汽車」佐々木信彰編『現代中国の産業と企業』第6章、晃洋書房、pp. 95-112、10月刊。
- (2) 「まえがき」同上書、i ~ iv。
- (3) 「(動向) 民族問題」中国研究所編『中国年鑑 2016』明石書店、pp. 95-98、5月刊。
- (4) 「(要覧・統計) 少数民族」同上書、pp. 296-297。

### 講演会

- (1) 「私と中国の出会い」日中学生会議、関西大学、4月5日。

## 佐藤 真人

### 著書

- (1) 『戦後日本の資本利益率格差』関西大学出版部、2016年3月刊。

## 佐藤 雅代

## 講演会

- (1)「おカネと健康」高槻市商業団体連合会、高槻市消費生活センター、11月29日。
- (2)「保健医療福祉の経済」健康福祉プランナー養成塾、自治医科大学、7月20日。
- (3)「ドイツの地域医療—制度の概要と地域の距離感—」第7回医療問題研究会（大阪）、大阪大学中之島キャンパス、5月26日。
- (4)「地域医療の実情と持続可能性」大阪市隣接都市協議会研修、関西学院大学梅田キャンパス、1月29日。
- (5)「ドイツの医療」北海道大学公共政策大学院、小清水町、1月12日。

## 新熊 隆嘉

## 分担執筆

- (1)新熊隆嘉「非対称情報下の環境政策—Weitzman（1974）以降の理論的展開」第4章『環境経済学のフロンティア』（有村俊秀、片山東、松本茂編）2017年3月刊。

## 論文

- (1) Arimura T., Kaneko, S., Managi, S., Shinkuma, T., Yamamoto, M., Yoshida, Y., Political Economy of Voluntary Approaches: A Lesson from Environmental Policies in Japan. Tokyo Center for Economic Research (TCER) Working Paper No. E-107.

## 壽里 竜

## 論文

- (1) “Hume as an *ami de la liberté*: the reception of his ‘Idea of a Perfect Commonwealth,’” *Modern Intellectual History*, 13: 3 (2016), pp. 569–596. 10月刊。

## 学会・研究会

- (1)「Ryu Susato, *Hume’s Sceptical Enlightenment* 合評会」（発題者：太子堂正称）、第27回ヒューム研究学会、愛知教育大学、9月2日。
- (2)「Ryu Susato, *Hume’s Sceptical Enlightenment* 合評会」（セッション「ヒュームとスミス」）（発題者：犬塚元・森直人）、第41回社会思想史学会大会、中央大学、10月29日。
- (3)「啓蒙と陰謀—ヒュームとルソー」、アダム・スミスの会例会、京都大学紫蘭会館、11月26日。

## 鈴木 智也

## 論文

- (1) “Cash benefits for poverty relief from the viewpoint of suicide prevention”. *Eurasian Economic Review*, Volume 6, Issue 3, Springer, pp. 489–498, December. [研]

## 学会・研究会

- (1) “Business fluctuations in South Africa after apartheid: Through the lens of an RBC model for a small open economy”, 42nd Annual Conference of Eastern Economic Association, Washington DC, USA, February 25–27.
- (2) “Productivity Shocks and Interest Rate Shocks in Serbian Business Cycles”, Euro-Asia Forum in Politics, Economics and Business, University of Belgrade, Serbia, July 21–22.
- (3) “Business fluctuations in post-apartheid South Africa”, 日本経済学会2016年度秋季大会、早稲田大学、2016年9月10–11日。[研]

## 竹下 公視

## 論文

- (1) “Functional Socialism” and “Functional Capitalism” : The “Socialist Market Economy” in China, *Kansai University Review of Economics*, No.18, pp. 1-25, 3月刊。

## 書評

- (1) 佐藤光・中澤信彦編「保守的自由主義の可能性—知性史からのアプローチ」（ナカニシヤ出版、2015年10月30日発行）、『関西大学経済論集』、第65巻第4号、pp. 73-81、3月刊。

## 講演会

- (1) 「これまでの経済とこれからの経済」、Kan-Dai セミナー（出張講義）、関大北陽高等学校、2016年9月17日。

## 谷田 則幸

## 学会・研究会

- (1) A Study on the Effect of Job Assistance Policy toward Social Exclusion using Agent-Based Simulation Model, CEF2016 (The 22nd International Conference on Computing in Economics and Finance), Bordeaux (France), 26-28 June.

## 中川 竜一

## Working Paper (Discussion Paper)

- (1) 「Stable Sunspot Equilibria with Private Information」『Economic Society of Kansai University Working Paper Series』 No.F-78, 8月。(McGough, B. との共著)

## 学会・研究会

- (1) 「Stable Sunspot Equilibria with Private Information」(McGough, B. との共著) 31st Annual Congress of the European Economic Association & 69th European Meeting of the Econometric Society, Geneva, 8月23日。  
 (2) 「同上」Midwest Macro Meetings Spring 2016, Purdue University, 5月21日。  
 (3) 「同上」Royal Economic Society 2016 Annual Conference, University of Sussex, 3月21日。

## 中澤 信彦

## 論文

- (1) 「「バークとマルサス」はどのように論じられてきたのか？——研究史から見えてくるもの——」『関西大学経済論集』第65巻第4号、関西大学経済学会、pp. 35-59、3月刊。[研]

## 資料・その他

- (1) 事典項目執筆「フランス革命」マルサス学会編『マルサス人口論事典』昭和堂, pp. 15-16, 4月刊。  
 (2) 事典項目執筆「ウィッグとトーリー」マルサス学会編『マルサス人口論事典』昭和堂、pp. 17-18, 4月刊。  
 (3) 事典項目執筆「バーク, エドモンド」マルサス学会編『マルサス人口論事典』昭和堂、pp. 242-243, 4月刊。  
 (4) 事典項目執筆「ペイン, トマス」マルサス学会編『マルサス人口論事典』昭和堂、p. 274, 4月刊。  
 (5) 事典項目執筆「ピット, ウィリアム」マルサス学会編『マルサス人口論事典』昭和堂、p. 278, 4月刊。

## 学会・研究会

- (1) 「「バークとマルサス」はどのように論じられてきたのか？——研究史から見えてくるもの——」第3回バーク研究会、成城大学、1月30日。[研]  
 (2) “Reviewing the Development of Malthus’s Reformist Ideas from 1803 to 1806, With Special

Reference to His Criticism of Paine's *Rights of Man*,” 科研費「経済思想史における人口・貧困・福祉：国際比較」国際ワークショップ、龍谷大学、3月18日。[研]

- (3)「政府の「なすべきこと」と「なすべからざること」——ケインズはムーアとバークから何を学んだのか？——」第27回経済学方法論フォーラム、福井県立大学、6月11日。
- (4)「[バークとマルサス]研究と小林昇経済学史研究」マルサス学会第26回年次大会、徳島文理大学、7月3日。
- (5)“Reviewing Edmund Burke’s Concept of ‘Revolution’: an Overlooked Aspect of the Burke-Paine Controversy,” 29th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (HETSAs), Federation University Australia, Melbourne, VIC, Australia, 7月14日。[研]
- (6)“Reviewing the Development of Malthus’s Reformist Ideas from 1803 to 1806, With Special Reference to His Criticism of Paine’s *Rights of Man*,” 関西大学経済学会第32回研究大会、関西大学、7月20日。
- (7)「政府の「なすべきこと」と「なすべからざること」——ケインズはムーアとバークから何を学んだのか？——」近代思想研究会第45回例会、慶應義塾大学、7月23日。
- (8)“Reviewing the Development of Malthus’s Reformist Ideas from 1803 to 1806, With Special Reference to His Criticism of Paine’s *Rights of Man*,” 48th Annual UK History of Economic Thought Conference, 上海財経大学、中華人民共和国、9月2日。[研]
- (9)「政府の「なすべきこと」と「なすべからざること」——ケインズはムーアとバークから何を学んだのか？——」第41回社会思想史学会大会・セッション「啓蒙の遺産—戦争と平和を考える」、中央大学、10月30日。
- (10)「18世紀中葉～19世紀初頭のイングランド社会の結婚パターンとその思想史的意義——ハードウィック結婚法をめぐるバークとマルサスの見解を手がかりにして——」社会思想史研究会、同志社大学、12月24日。

#### 講演会

- (1)経済学史を「実践」する——学部教育・学内行政・ポスト獲得——」経済学史学会若手育成プログラム (Young Scholars Seminar)、中京大学、10月15日。

#### 長久 領孝 論文

- (1)“Arrovian Social Choice with Psychological Thresholds” *Journal of Mathematical Economics* Volume 63, pp. 93-99, March 2016. 加茂知幸氏（京都産業大学）との共著

#### 橋本 恭之 論文

- (1)「ふるさと納税制度の検証と改善策」『地方財務』第743号、pp. 31-39、5月刊。
- (2)「夕張市の財政再建と税源流出」『地方財政』第55巻第7号、pp. 169-195、7月刊。(共著)
- (3)「ふるさと納税制度の現状と課題」『会計検査研究』第54号、pp. 13-26、9月刊。(共著)

#### 橋本 紀子

##### 学会・研究会

- (1)「家計属性による費日間構造の違い—全国消費実態調査マイクロデータによる分析—」、平成27年度 KUMA ミクロデータ利用促進ワークショップ、神戸大学法学研究科大会議室、2016年3月3日。

**林 宏昭**  
**論文**

- (1)「個人住民税の課題とその対応について」『地方税』第67巻第5号、pp. 2-7、5月刊。
- (2)「地方税・財政の課題」『生活協同組合研究』第485号、pp. 21-28、6月刊。
- (3)「高等学校教育の財政分析」（松本千賀子と共著）『関西大学経済論集』第66巻第1号、pp. 19-30、6月刊。

**資料・その他**

- (1)「シンポジウム アベノミクスと税財政改革」（パネリスト）日本財政学会編『アベノミクスと税財政改革（財政研究第12巻）』、有斐閣、9月刊。

**書評**

- (1)横山直子著『徴税と納税制度の経済分析』（中央経済社、2016年）『大阪産業大学経済論集』第18巻第1号、大阪産業大学学会、pp. 81-84、10月刊。

**前川 聡子**  
**分担執筆**

- (1)「医療費負担と医療需要：財政錯覚は存在するか」本間正明・松浦成昭・河越正明・日高政浩編著『医療と経済』第5章、pp. 118-140、大阪大学出版会、12月刊。

**論文**

- (1)「株主構成と設備投資のキャッシュフロー感応度：日本の製造業財務データに基づく分析」『関西大学経済論集』第66巻第1号、pp. 1-18、6月刊。

**学会・研究会**

- (1)Taxation and Consumer Confidence : Empirical Evidence in Japan NCU 現代経済学研究会、同志社大学、9月15日。

**松尾 精彦**  
**論文**

- (1)「ロト6分析（ガンマ・ポアソン分布の適用例）」『関西大学経済論集』、第66巻第2号、pp. 1-22、10月刊。

**良永 康平**  
**分担執筆**

- (1)「日本のフードシステムと環境負荷」榎原正澄編『食と農の環境問題』第5章、すいれん舎、72-90ページ、9月刊。
- (2)「食農を支える生態系環境」榎原正澄編『食と農の環境問題』第6章、すいれん舎、91-105ページ、9月刊。



## 准教授

ご活躍の足跡  
(2016年1月～12月)石井 光  
論文

- (1) “Vertical Separation and Integration in a Utility Industry Where Entrants Invest to Reduce Cost Disadvantages” Kansai University, Review of Economics, vol.18, pp. 69-89.
- (2) 「内生的スピルオーバーを伴った共同研究開発の効果」『関西大学経済論集』、第65巻第4号、関西大学経済学会、pp. 19-34、3月刊。

岡田 啓介  
論文

- (1) “Collateral Constraints and the Current Account: Theory and Evidence” Economic Inquiry 54 (1), pp. 633-651, January. (with Takuma Kunieda and Akihisa Shibata)
- (2) “Corruption, Financial Development and Economic Growth: Theory and Evidence from an Instrumental Variable Approach With Human Genetic Diversity” Economic Notes 45 (3), pp. 353-392, November. (with Takuma Kunieda and Akihisa Shibata)
- (3) “A Simple Model of Contract Enforcement Institutions” Pacific Economic Review, forthcoming. (with Takuma Kunieda and Akihisa Shibata)

## 学会・研究会

- (1) “How Does Democratization Affect the Composition of Government Expenditure?” (with Go Kotera) 京都大学経済研究所研究会、京都大学、3月16日。

柏原 宏紀  
論文

- (1) 「工部省政策過程における「現場」の論理の登場」『武蔵野法学』第5、6合併号、pp. 277-308、12月刊。

## 資料・その他

- (1) 「第10章 政治改革」縣公一郎・笠原英彦編著『なぜ日本型統治システムは疲弊したのか』ミネルヴァ書房、pp. 249-274、6月刊（門松秀樹と共著）。

## 学会・研究会

- (1) 「開明派官僚と参議の「政官関係」形成史」日本政治学会2016年度研究大会分科会C-4、立命館大学茨木キャンパス、10月2日。

熊谷 幸久  
著書

- (1) 関西大学経済史研究会編『経済史教材 2016年度版』関西大学生協同組合、第2部第12章 pp. 59-63、第4部第1章 pp. 118-122、第6章 pp. 143-147、4月刊。

## 講演会

- (1) 「歴史から見たイギリスのEU離脱問題」、2016年度関西大学経済研究部OB会総会、大阪東急REIホテル、11月26日。

神江 沙蘭  
学会・研究会

- (1) “The Politics of Integration: How Reform Dynamics Changed after the Euro Crisis” ヨーロッパ研究協議会（Council for European Studies）第23回年次総会、フィラデルフィア（米国）、

4月15日。

### 講演会

- (1) “The Politics of Integration: Unbalanced Development in European Financial and Monetary System” ジャンモネ CoE (Jean Monnet Centre of Excellence) 国際ワークショップ、神戸大学、5月11日。

### 佐藤 方宣

#### 資料・その他

- (1) 「公正と効率、両方の視点で（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、1月。
- (2) 「教育の公的負担増に合意を（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、2月。
- (3) 「人工知能は雇用を奪うのか（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、3月。
- (4) 「大学「地元志向」への懸念（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、5月。
- (5) 「最低所得保障が問うもの（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、6月。
- (6) 「世代超えた討議が不可欠（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、7月。
- (7) 「チケット転売問題と市場（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、9月。
- (8) 「努力と勤勉の新たな意味合い（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、10月。
- (9) 「就職氷河期世代が問う問題（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、11月。

#### 書評

- (1) 岩井克人著（聞き手：前田裕之）『経済学の宇宙』（日本経済新聞出版社、2015年）『経済学史研究』58巻1号、pp. 161-162、経済学史学会、7月刊。

#### 学会・研究会

- (1) 「ロールズとナイト——『正義論』のなかのアメリカ経済思想」近代経済学史研究会、関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパス、10月1日、[研]。
- (2) 「Frank Knight on Self-Interest: Why ethics cannot be reduced to “glorified economics”？」利己心の系譜研究会、東京大学・本郷キャンパス、11月12日、[研]。
- (3) 「ロールズとナイト」現代経済思想研究会、下関市立大学、12月3日、[研]。

## 助 教

ご活躍の足跡  
(2016年1月～12月)北川 亘太  
分担執筆

- (1) 北川亘太・植村新著「ドイツの労働組合による組織化戦術の新展開」山本泰三編著『認知資本主義——21世紀のポリティカル・エコノミー』第8章、ナカニシヤ出版、pp. 189-216、4月刊。

## 論 文

- (1) “An Analysis of J.R. Commons’s Changing Views on the Role of Sovereignty in the Political Economy,” *Kyoto Economic Review*, Vol. 84, No. 1-2, pp. 2-28, 3月刊。
- (2) “Cumulative Causation in J.R. Commons’s Institutional Economics from the Perspective of Instrumental Pragmatism,” *Cahiers d’économie politique*, No. 70, pp. 75-106, 8月刊。
- (3) 北川亘太・井澤龍著「アメリカ社会の発展と J.R. コモンズ『適正価値論』の形成」『経済論叢』第190巻第1号、pp. 71-108、7月刊。

## 資料紹介

- (1) ミッシェル・カロン「市場的配置とは何か [上]」『経済論集』第66巻第2号、北川亘太・須田文明訳、pp. 35-68、10月刊。
- (2) ミッシェル・カロン「市場的配置とは何か [中]」『経済論集』第66巻第3号、北川亘太・須田文明訳、pp. 23-55、12月刊。

## 翻 訳

- (1) ペール・フル・クリステンソン「挑戦支援型福祉国家の発展に向けて——試行錯誤をいとわない経済活動を支えるために (下)」『四天王寺大学紀要』61号、山本泰三・北川亘太訳、pp. 379-405、3月刊。

## 学会・研究会

- (1) 「司法的主権から支配をめぐる闘争へ——J.R. コモンズの政治経済システム描写の変化」第20回進化経済学会、東京大学、3月26日。
- (2) 山本泰三・北川亘太「A. ネグリにおける価値と労働 ver.1.1」第20回進化経済学会、東京大学、3月26日。
- (3) 北川亘太・井澤龍「アメリカ社会の発展と J.R. コモンズ『適正価値論』の形成」社会経済史学会近畿部会、4月例会、神戸大学、4月16日。
- (4) “Political Government and Economic Government in J.R. Commons’ Institutional Economics,” Monetary Institutionalism in the French-Speaking World, Sciences Po Lyon, Lyon, France, 6月2日。
- (5) “The Driving Forces of Diffusion in John R. Commons’ Institutional Economics,” European Association for Evolutionary Political Economy, 28th Annual EAEPE Conference, Manchester Metropolitan University, Manchester, United Kingdom, 11月3日。